

景況実感調査(2021年1月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日は18日となり対前月比実質10日減。売上、数量共にほぼ前年並みとなっているので日足は若干増。市中在庫の極端な減少は、この先の見通しも判然としない中で、足下の商売にも大きな影響が出現している。ノミナル価格での流通は、相互信頼を崩しかねず、近い将来の顧客離れにも繋がるからだ。お客様への供給責任を強く意識しながらも、目先の商材手当に追われている。緊急事態宣言も1か月延長となり、実需の回復はワクチン接種の実施が始まる新年度からとなりそうだ。
- ② 材料メーカーの枠カット、輸入材の減少等により材料不足は継続。在庫問い合わせ、見積り確認の電話が多いが、断りか要望の半数及び1/3程度しか応えられないケースがほとんど。但し、メーカーの供給が充たされてくれば、需要が今一なだけに一気に解消するものと思われる。
- ③ 1月は前月比横這い。前年比では微減であった。もうコロナ前の水準には戻らないと予想され、現状での利益確保に努めなければいけない。三品在庫も低水準で推移しており、しばらくは無物高の様相を呈していく。
- ④ メーカーからの値上げに備え多少の動きはあるが、今後厳しい状況が予想される。
- ⑤ 母材の入着がまばらのため、注文残の消化促進に至らず、依然としてハンドリングに苦慮している。GW前までこの状況が続くと踏んでいるが、毎日頭が痛い。POオフターも国内外とも高値で、転稼を気にしたいところだが、今後の商売を考えるとやり過ぎても良くないし、値上げにも苦慮している。

中板

- ① 在庫が前年同月比50%以下となっている。激減していて客先に迷惑をかけている。
- ② 供給削減が続く中、在庫は近年最低の水準となって注文に応じられない状態であり、2月度の売上が更に落ち込むことが心配である。ナイモノ高による市況上昇で、売り手市場のように見えるものの実需の実感はなく、供給要因だけの結果に因ることから“売り手市場でないような”これまでにあまり経験したことのない難しい状況に困惑している。緊急事態宣言延長の影響と、最近の短期間での関東地区スクラップ価格の急激な上昇と下落を見ているだけに、市況に対する今後の不安も募る。高炉とユーザーとの価格動向ともども市況の高位安定が望まれるところである。
- ③ 東京製鉄は国内売り2月契約販価据え置き発表となったが、鋼板品種は依然として在庫が極めて低水準が続いている。引合いは旺盛で問い合わせ数量、納期に対応できない状況。高炉の値上げ分の転嫁もあり、今月も値上げ局面が続く。

厚板

- ① 販売量は前月比微減。前年同月比約1~2割減の低迷が続いている。産業機械ユーザーは増産を目論んでいるが、足下の回復ペースはやや鈍い。建機関連ユーザーも、油圧ショベル系は回復傾向にあり受注は順調。一方でクレーン系はようやく在庫調整が完了する段階で、各社の足取りの力強さには差がある。土木案件は基本的に手堅く推移してきたが、新規案件の着工が遅れており、今後数カ月は減速が見込まれている。素材販売は低位横ばい。前年同月比では3割の減少。材料のタイト化も販売減に影響している。厚板分野では、鉄源が自動車を中心とした紐付き向けに優先され、納期が長期化していることから、足下では一部で減少傾向にある在庫もあるが、建築需要不振が続いており薄中板程の切迫感はなく、切板の需要もなかなか上がって来ず、一日の工程が埋まらないシャーも散見している。

舟型開張鋼

- ① 11月から12月にかけて微量だが底打ち傾向にあり、1月に期待していたが見事に裏切られた。スクラップ急騰により電炉メーカーを中心に大幅な製品値上げを実施したが、追い風にもならず中国春節明けの動向に関心が移る。需要の無い現実を見据えての営業邁進こそ王道か。

工工開張鋼

- ① 1月の倉出しは増加。前年同月比は減少。上旬からは土木需要が回復し、先々月と同様の数字。今月は不需要期で期待はできないが、値上げ玉の入荷があり、価格転嫁の売り腰を強め、採算重視の販売に努める。

異形棒鋼

- ① 細かい当用買いが中心。低位安定。建値は80円/kgに上がった。コロナ発生から1年。良い時と悪い時の数値は分かった。しかし、状況の変化が激しく先が見通せない。
- ② スクラップ市況の下落を受けメーカーは静観。流通は市況押し上の動きが難しい環境となった。需要減、原料安は製品市況に大きく影響するが、流通としては市況水準を維持して、採算確保を求めたい。
- ③ 今後、建設業界も益々厳しくなると予想する。

平鋼

- ① 1月は仮需も発生し荷動きはやや戻ったが、足下は反動で減少している。実需はまだまだ少なく、値上げの影響もプラスされ、最低限の注文に止まっている。メーカー値上げの転嫁分は道半ばであるが、早くも停滞ムードになりつつある。しかし、メーカーの売り腰に変化はなく非常に厳しい。引き続き価格転嫁を進めていく。

車巻開張鋼

- ① 商売は依然として低調だが、それ以上にメーカーからの入荷が悪く品薄感がかなり出てきており、欠品サイズも増えてきている。このままでは取りこぼしがかなり多くなりそうだ。
- ② 例年閑散期だが、通常より受注は減少気味。受注品目も例年と相違している。

鋼管

- ① 前年比では増加したが、緊急事態宣言により失速気味で推移。20日以降は先行き値上げ基調により、仮需の動きが見られる。
- ② 年明けの荷動きは低調横這いながら、粛々とメーカー値上げの価格転嫁を進める。
- ③ このひと月でメーカーの値上げ幅が予想より大きくなったことで仮需が出ている。実需についても昨年よりは増加の見通しである。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車向けは底堅く、建機は堅調(大型除く)、産機は向け先により温度差がある。店売りの荷動きは低位、振るわない。在庫量はほぼ適正になっている。価格はスポット対応で安値が聞かれるも、横這い基調。

磨棒鋼

- ① 自動車向けや産機向けの一部紐付き品については受注が増加し、厳しい納期の要求が多く、対応に苦慮している。一方、小口の店売りについては、現在も出荷は低調で推移している。製鋼メーカーから価格値上げのアナウンスが来ているが、今後どのような形で顧客へ話にいくか、この1~2カ月の動向を注視していく。

その他

<鉄線・ナマン>

- ① 1月20日よりナマン鉄線を値上げした。数字が好調に見えるのはそのせいだ。

<鉄スクラップ>

- ① 年末に急騰したスクラップ相場は年明けより一気に急落。日々上昇した12月、日々下落した1月、こんな極端な相場の変動に振り回された年末年始。世界的なスクラップ不足の状況に変わりはなく、国内・海外の需給バランスとそれぞれの思惑が繊細な市況に反映されている。今後も日本のスクラップ市況は海外市況に大きく左右される事は間違いなく、より一層の情報収集と冷静な判断が必要不可欠だ。

<金属表面処理>

- ① 1月は、紐付き材は予定通り。物件物の追加発注及びスポットも活発であったため、処理量維持。2月もプラント、物件物が継続し、付加価値の高い案件があることから高操業で推移しそうである。